

# 高齢化社会の対策

## ～地域コミュニティの活性化～

### 【アブストラクト】

本研究は、将来の高齢化社会に対して地域共助という面からアプローチしていこうというものである。しかし、コロナ禍によって地域コミュニティ内のコミュニケーションが減少しているため、イベントを通じて地域活性化をすることでコミュニケーションを増やし、地域共助をできるようにする。私達は班員の多くが住む富谷市明石台地区に焦点を当てて探究を行った。結果として、この探究には明確な答えなど存在しないのである。

キーワード:高齢化社会、明石台(富谷市)、地域コミュニティ活性化、イベント、エイジレス社会

### 【本文】

#### I.はじめに

私は右に示した新聞記事が目にとまり、2070年までに生産年齢人口が減少し高齢者の割合が増える——いわゆる少子高齢化が大きく進行する可能性があることを知った。また、高齢化により配偶者が亡くなってしまったり、誰も関わりを持たなくなることによって個人主義や孤独死などの問題も生まれる。このことは新型コロナウイルスの影響もあり更に顕著なものになっている。そこで私はこの少子高齢化に対して、高校生という立場から何かできることがないかと考えた。少子高齢化の原因としては右図のロジックツリーのように、先に述べた個人主義や孤立の他にも、経済格差によるもの、QOLの低さなどが挙げられる。しかし、経済格差とQOLに関して、改善策に社会福祉や技術革新など政治経済や産業などが関わってくるため、高校生という立場からアプローチすることは難しい。その結果、地域住民どうして共助し合うこと——隣の家の人と醤油を貸し借りできるような関係を作ることが高齢化社会対策への糸口になるのではないかと思いついた。地域共助をするためには地域コミュニティを活性化し、住民同士のコミュニケーションが取れるようになることが必要だ。実際高校生で町内会長になったという事例もあるため、地域コミュニティの活性化は十分自分たちにもできる範囲の探究である。私達の班は富谷市に住んでいる班員が多かったことから、富谷市、その中でも明石台地域に焦点を当てて地域コミュニティを活性化させようと計画した。私達は少子高齢化社会に達した際に地域共助をしあえる関係が築かれていることを目的としてこの探究を進めていった。

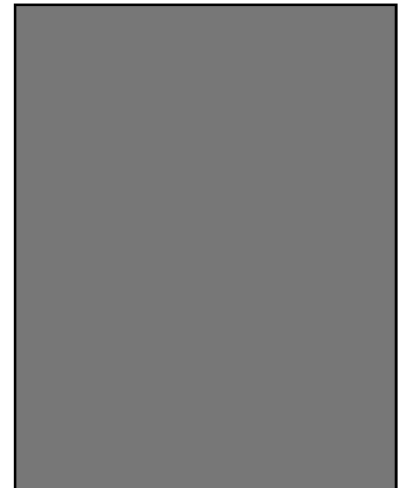


図1 河北新報

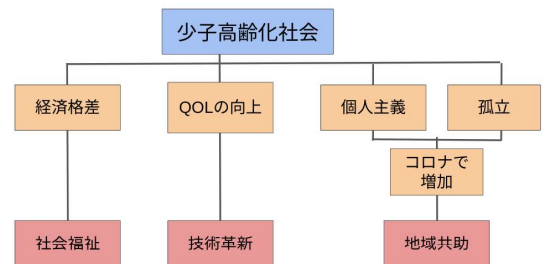


図2 ロジックツリー

#### II.研究方法

地域コミュニティの問題点を探るために、まず現状としてどのくらい地域コミュニティの住民の間でコミュニケーションを取れているのかを調べるためにアンケートを取る。アンケートは明石台六丁目の方に、googleフォームを使って取る。アンケートは町内会に協力していただき、フォームのQRコードが掲載された紙面を回覧板と一緒に回してもらおう。アンケートの回答結果からコミュニティの問題点を見つけ出し、それに適したコミュニティの活性化方法を模索する。そこで決定したコミュニティ活性化方法を実践し、その後アンケートを再度取り、実践前後でどのように変化したかを調べる。可能なら反省点をもとに内容を改めながら何度か活性化方法を実践して、町内会の方たちに引き継いで行ってもらう。この探究は主に明石台六丁目町内会の協力のもと進めていく。

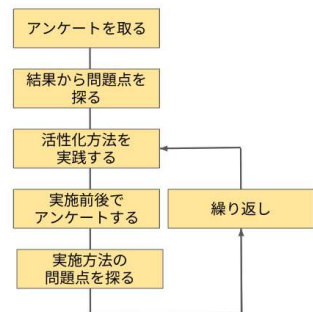


図3 フローチャート

### Ⅲ.探究内容

将来的に醤油を貸し借りできるような関係を築くにあたって、まず現状としてどのくらい地域コミュニティ間でコミュニケーションを取れているのかを調べるためにアンケートを取った。アンケートの内容は

- ①年代(必須回答ではない)
- ②1週間で何回くらい会話をしたか
- ③②でしたと答えた場合…どのくらいの時間会話をしたか
  - ②でしなかったと答えた場合…なぜ会話ができなかったのか

の3つの内容についてgoogleフォームを利用して質問をした。また、アンケートは町内会に協力していただき、フォームのQRコードが掲載された紙面を回覧板と一緒に回していただいた。なお、質問内容と回覧板と一緒に回して頂いた紙面は以下ようになる。

あなたの年代を教えてください

~20  
 20代  
 30代  
 40代  
 50代  
 60~

---

過去一週間で何回近所の人と会話や挨拶をしましたか\*

0  
 1~3  
 4~6  
 7~9  
 10~

図4 アンケートの質問内容

地域コミュニティについて

会話をした場合は平均何分程度話しましたか\*

挨拶程度だった  
 5分程度  
 10分程度  
 15分程度  
 20分程度  
 25分以上

---

地域コミュニティについて

挨拶や会話ができなかった理由は何ですか。(近いものをすべて選んでください)\*

相手をよく知らなかったから  
 挨拶をする相手と会わなかったから  
 仕事などで余裕がなかったから  
 返してくれないから  
 人と話すことが苦手だから  
 その他: \_\_\_\_\_

**地域コミュニティのアンケート依頼**

仙台三高の授業の一環で地域コミュニティについて調べています。地域コミュニティとは、地域をより良くするための地域住民同士の繋がりのことです。我々はより良い地域の形成を目指して、この活動を行っています。このアンケートでは、地域住民同士の関わり合いに関して情報を集めたいと思っています。アンケートは匿名での回答になりますので安心して回答していただければと思います。アンケートへのご協力よろしくお願ひします。  
 下記のQRを読み込んで回答をお願いします。



図5 QRコードを掲載した紙面

それぞれの質問の結果として以下の通りになった。

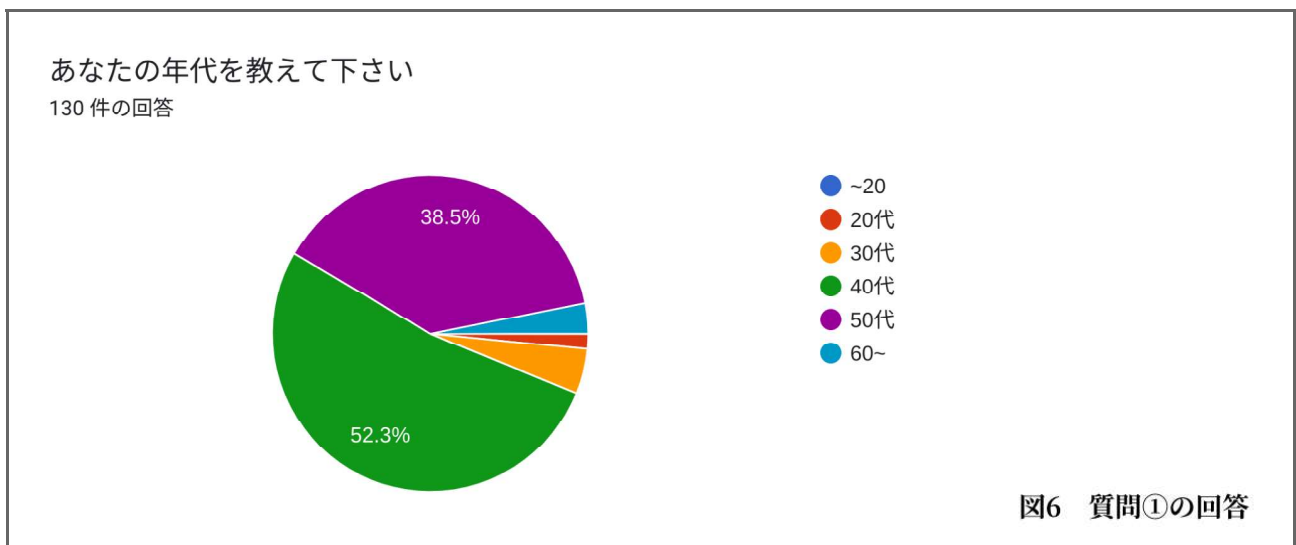


図6 質問①の回答

過去一週間で何回近所の人と会話や挨拶をしましたか

132件の回答

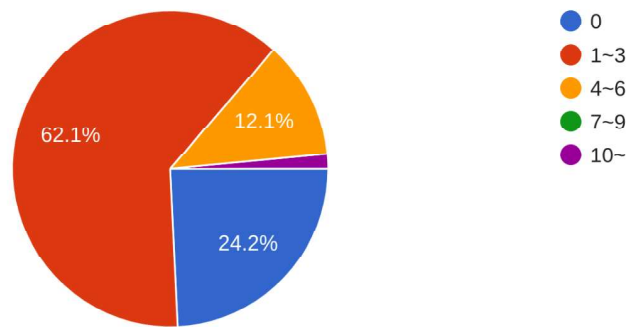


図7 質問②の回答

会話をした場合は平均何分程度話しましたか

100件の回答

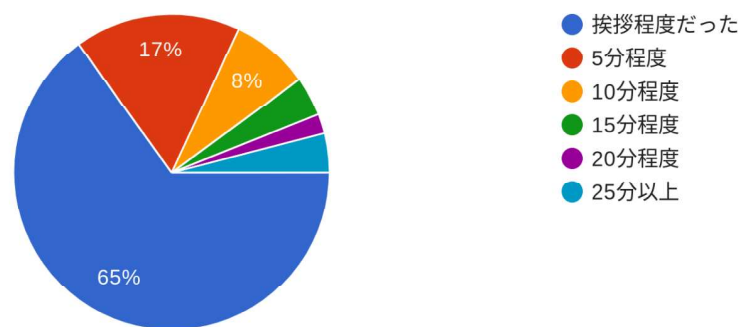


図8 質問③(会話した場合)の回答

挨拶や会話ができなかった理由は何ですか。(近いものをすべて選んでください。)

32件の回答

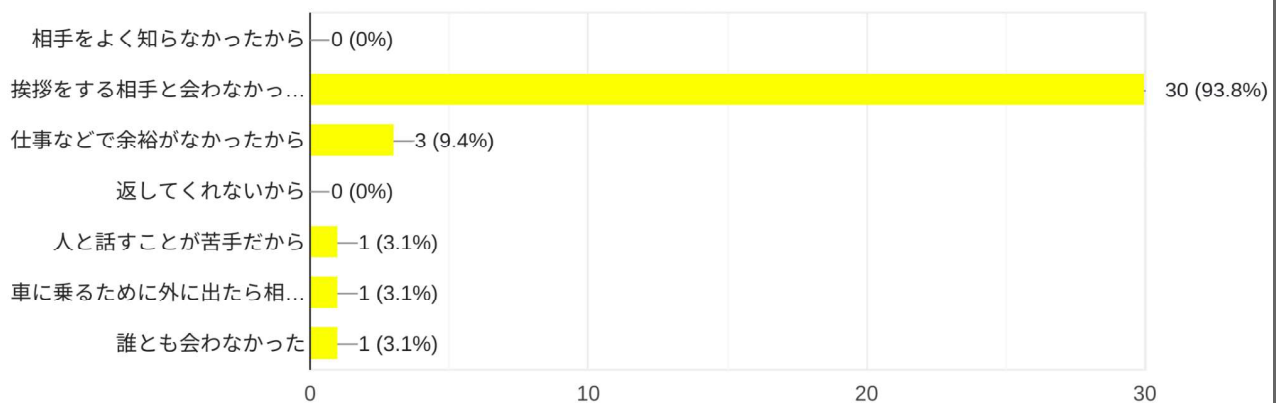


図9 質問③(会話しなかった場合)の回答

結果として、年代は40～50代の親世代が多く、週に1～3回の会話をする人が最も多く、会話の時間は挨拶程度のととても短いものであり、会話ができなかった理由は挨拶する相手と会わなかったというものが最も多かった。このことから、地域の人たちは会う機会が少なく、近所の人々と交流できていないということがわ

かる。また、会う機会の減少はコロナ禍で祭りなど地域のイベントが中止になってしまったことも原因の1つであるだろう。そこで私達は、地域の人たちで交流する機会を設けるためにイベントを実施することにした。

イベントを実施するにあたって、私達は六丁目町内会の方々との意見交流を行った。六丁目ではもともと「ゆとりすと」という高齢者の方々が集まる座談会のようなものを行っていた。しかし、新型コロナウイルスの蔓延や、配偶者と参加していたが亡くなってしまい参加しなくなったなどの理由で参加者が減ってしまっているという現状を聞いた。そこで、私達は子供から高齢者までどの年代の方でも参加できる、かつ高齢者も来たいと思えるようなイベント内容が適切であると考えた。町内会の方からは、かるたなど大人と子供で差が出るものがある、高齢者が子供に昔遊びを教えるのはどうかなど様々な貴重な意見を頂いた。その上で私達が考えた案、候補は次のとおりだ。

	利点	課題点
座談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負担は少ない</li> <li>・継続的に行うことで人が集まる</li> <li>・臨機応変にやることを変えられる</li> <li>・年齢関係ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と若者で話が合わない可能性がある</li> </ul>
かるた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に関係なく参加できる</li> <li>・ことわざなどを学べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と子どもに差がある</li> <li>・札の消毒必須</li> </ul>
ニュースポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代に関わらず参加可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールが理解できるか</li> </ul>

図10 イベント内容の候補

座談会は物が必要なく、年齢に関係なく参加できる、また行う時々で話題が変わるので飽きないという利点がある。その一方で高齢者と若者の間のそこで暮らしている年数の違いやジェネレーションギャップによって話が噛み合わず、会話が上手く回らない可能性がある。かるたは年齢に関係なく参加でき、ことわざや都道府県など多様な種類のものがあるが、大人と子供の手の長さの差や、新型コロナウイルスの観点から札の消毒が必須である。ニュースポーツはポッチャなどパラリンピックの競技に選ばれているものもあるため、誰でも参加できる一方、高齢者や子供にルールがしっかり理解できるかが不安である。また、座談会は参加人数が少なくても行うことが可能だが、かるた、ニュースポーツはある程度的人数が参加しないと行うことができない。私達はイベント場所は六丁目会館をお借りし、人数が集まった場合はかるた大会、あまり集まらなかった場合は座談会を行うという計画でイベントを開催することにした。イベントの告知はアンケートと同様に右上図のような紙面を回覧板と一緒に回していただき、参加したい方に申込用紙に名前等を記入してもらった。

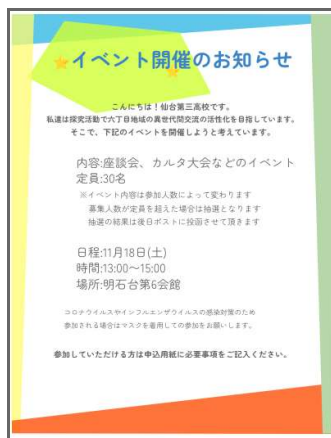


図11 イベント告知紙面

イベントの参加者は10人と少なかつたため、座談会を行った。座談会では町内会の盛り上げ方などの意見交流を主に行った。なお、イベントの様子は右のようだった。参加者からは私達の探究についての貴重な意見を頂くことができた。意見としては、告知が回覧板だけだとイベントについて知らない人が多い、イベント内容が不確定で参加しづらい、申込制でキャンセルしづらい、高校生が主体となって地域を盛り上げてくれるのが嬉しい等の意見が出た。今回の座談会では今住んでいる富谷市についてのことを更に認識を深めることができ、探究に関する貴重な意見を頂くことができた。しかし、イベント後のアンケートについては参加者が少なかつたためイベント前と異なつた結果は得られないと判断し、行うことがで

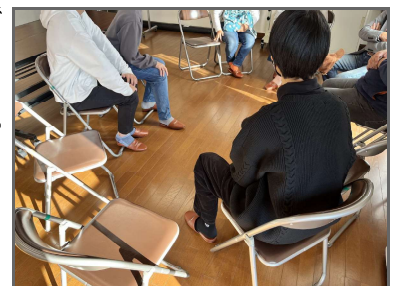


図12 イベントの様子

きなかった。私達は地域コミュニティを活性化するために、まず地域の住民が集まるイベントの内容、告知方法を考えることが必要だと感じた。

私達は修学旅行で大阪府河内長野市の河内長野にぎわいプラザを訪れた。河内長野市の方たちはとても親切で親身になってお話して下さった。河内長野市は昔は栄えていたが、現在は空き家が増えるなどして廃れてしまっている。また、主な移動手段は自動車であるがアクセスが悪く、商店街に訪れる人が少なくなっている。そこでにぎわいプラザ内でブースを貸し出して、店を出したり教室を開くことができるようにしている。貸ブース利用から実際に店を開いた人もいたようだ。また、歌謡曲を歌う「うたごえ」を隔月開催しており、参加者にまちなかクーポンを配るなどして、100人以上の人が参加している。にぎわいプラザの方たちが河内長野市役所の職員も呼んでくださり、市で行っている政策についても話を伺った。市では河内長野駅の前に大きな道路を作り、アクセスを良くする計画を練っている。また、空き地を利用した屋外でのビブリオバトルや店にテラス席を設けるなどをして市を盛り上げていた。私達はにぎわいプラザの方及び河内長野市役所の職員と探究についての意見交流を行った。イベントを行った人が集まらなかったことから集客方法を訪ねたところ、年齢関係なくではなく年齢層を絞ったり、イベントの告知方法を回覧板だけでなく呼びかけるのではなくSNSなどを活用するなどのアドバイスを頂いた。また、イベントを1回きりではなく定期的で開催することで参加してくれる人が定着するだろうという意見も頂いた。私達になかった視点からの意見を頂くことができとても有意義な時間となった。余談になるが、私達はにぎわいプラザの理事長のお店にお邪魔させてもらった。理事長は醤油蔵を営んでおり、実際に発酵している途中の醤油を見せてもらった。また、レコードや古い新聞など歴史を感じられるものがあった。醤油蔵ではライブなどを行っている聞き、音楽部でバンドを組んでいる者としてそこでライブをしてみたいと感じた。



図13 にぎわいプラザ訪問



図14 意見交流の様子

これらのことからイベントの改善案として右図のようなことが考えられる。開催頻度は不定ではなく定期的で開催して定着させる、内容は年齢層を絞ってそれに合わせた内容を確定する、参加形態は申込制ではなく自由に参加できるようにする、告知は回覧板だけではなくSNSや広報誌等の様々な媒体を用いるクロスメディアで告知をする。この改善した内容で再度イベントを実施しようと考えたが、準備や町内会との打ち合わせにも時間がかかるため定期的に実施することができなかった。

開催頻度	内容	参加形態	宣伝方法
1回のみ	人数で変動	参加者が申込書に記入	回覧板のみ
↓	↓	↓	↓
隔月開催で定着させる	内容決める年齢層絞る	申し込みフリー	クロスメディア

図15 イベント改善案

#### IV. 考察

本探究はイベント前後でアンケートを取り、イベントの効果を調べるものであったが、イベント後のアンケートができず十分な情報が得られなかったため、結果としては地域活性化には至らなかったといえる。

##### 1. 班としての考察

探究36班ではこのような結果となった原因としてコミュニケーション不足だと考えた。私達には人を集める力がなかった。例えば、有名アーティストが行うライブにはこぞって人が集まるだろう。それには、アーティストの知名度やプレミアによるものが大きいだろう。しかし、重要なのは縁の下の力持ちである、ライブの告知やチケット販売、会場の準備、警備などを行う人である。そのような人々がいなければ、マイケル・ジャクソンのようなアーティストでも、一人でライブは開けないだろう。そんな縁の下では、コミュニケーション能力が大部分を占めてくる。有名人のライブ開催ですら必要となってくるのに、高校生のイベントにおいては、更に重要になってくるのは間違いない。私達は、イベント実施の計画段階の連絡において、遅れてしまった事もあった。また、イベントの告知においても、本探究の意図や内容を伝えることに失敗していた。まず私達がイベントなどの段取り——縁の下におけるコミュニケーションをしっかりしなければ、地域コミュニティの方々同士のコミュニケーションを発展させていくことなどできなかったのだと考えられる。

##### 2. 個人としての考察

私個人の意見としては、しっかりとスケジュールが立てられていなかったことが原因だと考えた。私達が自分たちでイベントを企画、実施するのは今回が初めてだったため、イベントを実施するまでの困難さが分からなかった。そのため、1週間でイベント告知紙面の製作及び手直し、2週間で全世帯に回し回収する、その2週間後にイベント実施といったとてもハードなスケジュールとなってしまった。また、イベントを実施しようと決めてから実施するまで約半年かかり、早く実施しなければならないという焦りもあったからだろう。有名アーティストのライブは公演の何ヶ月も前に開催が発表され、チケットの発売、抽選が行われる。ということはライブに関しての打ち合わせ等はそれ以前から行われているだろう。マイケル・ジャクソンのようなアーティストのライブでも、私達の探究のようにハードスケジュールで行ったら成功しないだろう。そんなスケジュールの立てられていない高校生のイベントに参加したいと思う人がいるのか、いやいやない。大切なのは「イベントを実施する」ということではなくしっかりとスケジュールを立てて「イベントを失敗させない」ということであろう。イベント実施に関してスケジュールをしっかりと立てていなければ、地域コミュニティの方々同士のコミュニケーションを発展させていくことなどできなかったのだと考えられる。

## V.まとめ(終わりに)

私達の探究は思うような成果が得られず失敗で終わってしまった。今回の探究で実際にイベントを実施したことによって、イベントを企画してから実施するまでのプロセスやその困難さを知ることができた良い機会となった。だが、イベントを行うと決めてからイベントを実施し、少人数ではあるが参加してくださった方がいて達成感が得られた。この探究というものは私に新しい発見、経験をさせてくれるとても有意義なものだった。地域コミュニティの活性化という探究はここで終わってしまうが、地域コミュニティの一員として挨拶などをして、そこから挨拶が地域コミュニティ全体に広がっていけば本望である。これからも自分の住む地域を大切に、少しずつでも地域コミュニティに貢献していきたい。

本探究の指導をしてくださった渡部敦先生、アンケート、イベント実施など協力していただいた明石台6丁目町内会、修学旅行の班別研修で様々なお話を聞かせていただいたにぎわいプラザ、河内長野市役所の方、そして私と共に探究を進めてくれた36班のメンバーにこの場を借りて謝意を述べさせていただきます。本当に有難うございました。

## 注

### 参考文献

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=70465?pno=2&site=nli#anka1>

坊美生子 2022年3月9日 コロナ禍における人間関係の疎遠化と孤立・孤独|ニッセイ基礎研究所

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE228IS0S3A920C2000000/>

日本経済新聞 2023年10月29日 20歳の町内会長が高齢住民の「得意」を活かす

舛森悠 2024年1月18日 『総合診療科の僕が患者さんから教わった70歳からの老いない生き方』

## 資料

